5月園だより

きりすとこどもえん

２０２４年度 年主題〈さあ、漕ぎだそう～奏でよう～〉

0･1･2歳児５月主題「だいじょうぶ」

月のねがい

◎神さまに守られ、それぞれのペースで園生活に慣れていく
◎身近な大人に十分に受けとめてもらいながら、自分の周りの事柄に自分から関わろうとする
◎自然の音や色に気付いて触れていく

3･4･5歳児５月主題　「うごきだす」

月のねがい

◎日常の中で神さまが創造された世界を感じ感謝して祈る
◎一人で、また保育者や友だちと一緒に好きな場所を見つけ、やりたい遊びに心を動かす
◎風、土、虫の命を感じるなど、身近な自然の中で探究することを楽しむ

今月の聖句

「沖に漕ぎ出して網を降ろし、漁をしなさい」

ルカ福音書5:4(新共同訳)

観衆がドキドキする中、あるスタントマンがナイアガラの滝で綱渡りを行い、大成功を収め観衆から大喝采を受けました。すると、スタントマンは、その中にいた一人の少年に話しかけてこう言いました。「そこの坊や、私は綱渡りの名人だと思うかね？」･「うん」、「このロープで何でも出来ると思うかね？」･「もちろん！」、「自転車に人をのせて渡れると思う？」･「思う、思う！！」、「よし、坊や、じゃあ乗ってごらん！」･「･･･」。この少年はスタントマンが並はずれたスタントマンだと信じ、その事実を受け入れましたが、彼に信頼して自分の身を委ねる勇気を持つことは出来ませんでした。

何か新しいことにチャレンジする時、そこには勇気が必要になります。そして、その勇気を引き出すには誰かに声をかけてもらうことも必要です。今月の御言葉に選ばれている「沖に漕ぎ出して網を降ろし、漁をしなさい」は、漁師をしていたペテロがイエス・キリストの弟子となる時にかけられた言葉です。その言葉によってペテロも勇気を持って一歩踏み出して、イエスさまの弟子としての歩みを始めました。

新年度が始まって一ヶ月が経ちました。園の子どもたちも少しずつ新しい環境に慣れてきた頃でしょうか。園では新しい挑戦が沢山あります。新しいチャレンジに勇気を持てるように、是非、子どもたちに声をかけてください。その手を取って、前へ進み出ることが出来るように支えてください。

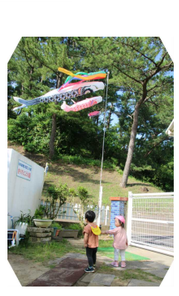
協力牧師　池田基宣

５月の行事予定

7~11日（土）	家庭訪問（３才以上）
14日（火）	誕生会（２歳以上５月生）
14日（火）	弁当日
16日（木）	内科検診
18日（土）	父母会主催ゴミ拾い作業
25日（土）	誕生会(めぐみ組４~５月生)
25日（土）	父母会役員会
27（月）～29（水）	フリー参観＆給食試食会（３才以上クラス）

６月の行事予定

1日（土）	職員研修
5日（水）	歯科健診
6日（木）	誕生会(2歳以上6月生)・弁当日
15日（土）	子育て講演会
25日（火）	巡回訪問



うごきだす5月を迎えて

進級･入園から約一ヶ月経ちました。保育者の皆様も怒濤のような日々が過ぎようとしているこの頃、少しずつ園全体も落ち着いてきたかな？と思えるようになってきました。
もちろん、まだまだ新しい環境に慣れる途中で、小さいクラスの中にはたくさん泣いたり、イヤイヤしたり、そんな子どもたちも見られます。「だいじょうぶ」が下のクラスの5月主題です。子どもたちが心から「だいじょうぶ」と感じられるよう、保育者自身が「だいじょうぶ」を与えられている実感を得られるようように、日々を過ごしていきたいと思います。もう一つ、3歳以上児の主題は「うごきだす」です。春を迎え、園庭にも様々ないのちがその姿を見せるようになりました。色とりどりの花やダンゴムシ、蝶々、いもむし、すずめ･･･。身近な自然の中で様々な発見をし、心を動かすひとときが、日々の活動の中で作られていくと嬉しいですね。

今月紹介したい絵本は、11ぴきのねこシリーズから「11ぴきのねこ　ふくろのなか」です。作者の馬場のぼるさんの作る優しい線と、版画ならではのはっきりとした色合いがとても好きなシリーズです。いくつもシリーズの中から、なぜこの作品を選んだのか。物語の冒頭がねこ達の遠足から始まり、親子遠足の終わったタイミングにちょうど良いかなというのも一つ。また、看板にある約束事を好奇心からついつい破ってしまうねこ達の姿が、なんだか子どもたちに重なるなと思いました。3歳以上児は交通安全教室もちょうどあり、本当に大事な約束はしっかり守れるよう伝えました。約束を破ってしまったねこ達がどうなってしまうかは、絵本を読んでのお楽しみです♪

（主任:圖師光基）

「あそび」は「まなび」

今年は早々に薄紫の花を散らし終え、センダンの新芽が枝いっぱいに芽吹いています。新緑の間から、優しい木漏れ日が園庭に注いでいます。公園の木々の薫りとともに、花壇の花々が、色とりどりに微笑んでいます。まだまだ肌寒い日もあり、汗をかくような夏日もありと、衣服調整にも気を遣いますね。さあ、今年も自然いっぱいの環境の下、五感を使って楽しんでいきたいものです。

新年度を迎えて、あっという間に三週間が過ぎました。玄関での泣き声もずいぶん少なくなり、少しずつ自分の居場所を見つけ始めた子どもたち。周囲の様子を観察しつつ、一日の流れや約束事を理解し始めているようです。周囲の子どもたちのことにも関心が向き、関わりも高まってくるでしょう。それに伴い、自己主張の衝突も出てくるということになります。いつも仲良く遊んで欲しいと大人は願いますが、様々な心の葛藤や交流を経て、互いを認め合う関係になっていくのを見守ることも大切ですね。何よりも保護者の皆さんが、お子さんのありのままをしっかり受け止めてくださる安全基地であることです。「泣いてもいいんだよ！」「いっぱいあそんでおいで！」それが見えない根を支える大地なのです。

毎年五月は同じ内容で恐縮ですが、幼児期における遊びの大切さを記させていただきます。幼児期の教育･保育は、自発的で主体的な活動である「遊び」から得た様々な経験を通じて、「生きる力の基礎を培う」ことを目的としています。夢中になって遊ぶ中で友だちとのトラブルや葛藤を体験し、挫折感や成功感を味わいます。遊びを考え、工夫し、試行し、協力し合います。自然溢れる空間、ゆったり流れる時間、そして感動を共感できる友だち、都市部では少なくなってしまったこの三間こそ遊びの大切な環境といえるでしょう。「遊び」こそがこの時期の「学び」なのです。一人ひとりの子どもたちの健全な成長を願うならば、質の高い「遊び」を担保しなければなりません。保育の中の「遊び」とは、①自分からすること(自発性)②満足するまですること(自己完結性)③楽しいと感じる喜び(自己報酬性)に定義されるようです。しかし、これだけでは、一日中スマホゲームに没頭することも当てはまってしまうので、他の要素も必要です。それが大人の援助です。子どもたちの遊びは、主体的であるが故に、パターン化し停滞しがちです。そこで新しい風を吹き込み、より面白さが増すプロセスが重要になってきます。保育者の最大の存在意義がここにあるわけです。遊びは、「休み時間」の遊びではなく、保育の中核であり、その質を高めることが子どもの発達に大きく関わるということを常に覚えながら、精進していきたいと思います。

子どもによっては、そろそろ疲れが出始める頃です。連休をご家族で楽しまれながら、どうぞ十分な休養もお願いしたいと思います。梅雨時を元気に乗り越えるためにも、毎日の変化に応じた対応や食事･睡眠に留意し、保護者の皆様のご協力をいただきながら園生活を支えていきたいと思います。

学園長

連絡帳の書き方について

保護者におかれましては、毎日仕事や家事でお忙しい中、連絡帳を記入して頂きありがとうございます。連絡帳の利用の仕方について今回は少し記載してみます。

①体調面について

「昨夜から鼻水が出ています」「夜中咳が出ていました」「ここ２日便が出ていません」など、少しの変化でも書いていいただけると、『鼻が詰まっているから給食が進まないのかな？』『咳で眠れてなくて機嫌が悪いのかな？』などと保育者は保育の中で推測できます。もちろん、「いつもどおり元気です！」でも結構です。

②好きな遊びなど

家での遊びやこれが好きということでも書いていただくと、お子さんとのコミュニケーションがしやすくなります「〇〇の歌が好きでノリノリで歌っています」「玩具の〇〇が好きで園から帰るといつも遊んでいます」など。 園でも〇〇の遊びで誘ってみようかな？など、会話もしやすくなります。

③夕方や朝、休日の出来事・様子

「園でした手遊びをみせてくれました」「家ではイヤイヤで服を着せるのも一苦労です」「土曜日は親子で公園に遊びに行きました」など。園では見ているだけだと思っていたけれど、本当はよく見てるんだなとわかり嬉しくなってきます。

④悩み・心配ごと

小さな事でも、気軽に書いて下さると助かります。
「ママをパンチしてきます。お友だちにはしていないですか？」「家では野菜を食べてくれません。園ではどうですか？」など。園ではこうしたら良かったなどお伝えしやすくなったり、実は少し気になっている姿も、保護者の方と共有しやすくなったりする事もあります。送迎時にはなかなか話す時間や話しづらいこともありますので、なるべく気軽に書いていただければ有難いです。

⑤成長・挑戦していること

「初めて手を放して一歩が出てきました」「階段を上がりたくて、よく挑戦しています」 など。
『歩きたがっているのなら、園でもサポートしてみよう』『園でも段差を上がるかもしれないから、気をつけて見守ろう』『ボタンの玩具を用意してみようかな？』など、発達段階を考えながら活動を計画する事に繋がります。

⑥園でのエピソード

「コロコロとずっと言っています。園でボール遊びでもしたのでしょうか？」「お友だちと一緒にお絵かきしたのが楽しかったそうです」「先生が教えてくれたと言って、家でも靴下を自分で履こうと頑張っていました」など。
お家で話してくれているとわかると、『楽しかったのかな？』『やって良かったな』と、保育者もとても励みになります。

保護者の方とお子さんの様子を連絡帳で共有することで、子育て時期の素敵な記録の宝物となっていくことは間違いありません。どうぞ、楽しんでご利用下さい。

園長